

浜曳き唄（宇多津浜）

昔から讃岐は、海に接し晴れの日も多く、全国屈指の塩の生産地でした。綾歌郡宇多津町、坂出市、丸亀市を中心に、東は高松市牟礼町・屋島、西は三豊郡詫間町・仁尾町の海岸に至るまで塩田が広く分布していました。総面積は一万二千三百六十四反といわれています。



わが国では地質的に岩塩などは産出せず、先人たちは海水から塩を作る製法に工夫を凝らしました。古くは縄文・弥生時代から「直煮製塩」、藻に海水を付着させる製法の「藻塩焼」を経て、海水を浜に揚げて天日で乾燥させる「揚浜式」から、さらに潮の干満を利用して海水を浜に揚げる「入浜式」へと移り、その技術を高めてきました。入浜式の製塩法は、江戸時代に始まり、遠浅海岸の満潮水位以下の場所に堤防を築き、その内側に砂層地盤の塩田を設けたものです。まず海水を塩田に引き入れて、海水を抜いた後、砂の乾燥や塩分付着の効率を高める為、砂の表面を引いて砂をかき混ぜて行きます。この作業を「浜引き」といいます。砂とともに天日でよく乾かし、大量に塩分を含んだ砂を集めて、海水で溶かし、塩分の多い鹹水ができます。更にこれを濾過して釜に入れ、火で煮詰めると真っ白い塩ができるのです。

塩田において「浜引き」は、馬鍬を引く作業をいい、この時、歌われたのが「浜曳き唄」です。浜引き作業に従事する人を「浜師」といい、「浜曳き唄」には浜師の生活の有様を表現した歌詞が非常に多いです。また他の作業唄と同じように塩田作業の動作そのものが唄の節回しを形成しています。特にこの唄は馬鍬を引っ張りながら塩田で作業をする浜師の動作がよく表現されています。



初期讃岐浜塩の図(門脇俊一木版画) / 若井健司蔵



浜曳き / 坂出市塩業資料館蔵



道具(浜道具) / 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

- 浜曳き唄（宇多津浜） 歌詞
- 1、アーわしは讃岐の 宇多津の浜師
アー色が黒いは親ゆずり
色の黒いは親ゆずり
 - 2、アー雨よ降るなよ 子持ちが泣くぞ
アー塩田浜師の わしも泣く
塩田浜師の わしも泣く
 - 3、アー落ちる玉汗 砂めが吸うた
アー横でカニめが 餅をつく
横でカニめが 餅をつく
 - 4、アー来るか来るかと 浜に出てみれば
アー沖の潮風 音ばかり
沖の潮風 音ばかり
 - 5、アーうちのといき 浜行く時は
アーすずし風吹け 空雲れ
すずし風吹け 空雲れ
 - 6、アー浜は照れ照れ 浜師は走れ
アー日がな一日 照れ走れ
日がな一日 照れ走れ

解説・編集：若井健司

瀬戸内仕事歌 出演団体・仕事歌原画 プロフィール

石切り唄保存会

高松市牟礼町と庵治町の境にある八栗山の西麓一帯では、良質の花崗岩（庵治石）が産出されます。庵治石の切り出しの歴史は、天正16年(1588)高松城築城開始の頃と言われ、石材の仕事は文化11年~12年(1814年~15年)の屋島神社造営に伴い、和泉の国(大阪)から呼び出された石工たちによって栄えたと言われています。石切り唄もその頃から歌い始められたそうです。その唄声も昭和30年代以降、機械化と共に次第に聞かれなくなり、地域の人達で石切り唄保存会が結成され、伝承活動を行なっています。「石切り唄」は、昭和57年高松市指定無形民俗文化財(旧 牟礼町無形文化財)に指定されました。出演者(10名): 山田文太郎、山田浩之、細川良一、中村義行、太田政治郎、太田真介、島本清司、田中真二、太田恵氏、和泉良照



讃岐民謡保存会

創立年月日: 昭和56年2月 構成員数: 50名 沿革・目的: 三谷町は、高松市南部の田園地帯で古くは南海道の宿場であり、多くの学者や先覚者を輩出し、歴史、自然にも恵まれた土地です。また、香川の三大溜池のひとつ三谷三郎池があり、総貯水量二百万トンといわれる豊かな水は讃岐平野を潤しています。昭和55年に讃岐草取唄が香川県代表に選ばれ、日本民謡大賞全国大会で日本武道館に出場したのを契機に讃岐民謡保存会を結成しました。以後、讃岐に伝わる古い民謡の掘り起しと継承に努めています。出演者(9名): 山下利雄、山下智恵子、村川詠子、藤井美幸、大西豊子、真鍋千枝子、田中文字子、山川通代、中井日出子



桑山会宇多津社中（宇多津民謡同好会）

創立時期: 約45年前 構成員数: 10名(桑山会国分寺社、坂出社、普通寺社、観音寺社を含めると会員総数は約60名) 活動頻度・場所: 週一回、宇多津保健センターにて 年間行事: 桑山会民謡発表会、宇多津文化協会芸能祭、老人施設慰問(年1~2回) 沿革: 私共の団体は、民謡桑山会と称し、発足は昭和四十年、平田桑山氏によって始まりました。平成八年より、阿部桑佑が二代目桑山会会主を務めています。先の瀬戸内国際芸術祭では、坂出の「櫃石 うちわ踊り」唄で出演させていただき、大変良い思い出に残っています。出演者(6名): 阿部桑佑(勝)、浅野末子、塩田喜代子、島本幸子、菊本達也、鈴池幾馬



現代舞踊研究会「土曜族」

1965年に香川県内では数少ないモダンダンスの団体として結成し現在に至ります。ダンス愛好家たちが、毎週土曜日に研究会として幅広い年齢層が集まり活動しています。これまでの作品には、「いわざらござら」「奉公さん」「海女の玉取り伝説」等の香川県にまつわるものや、「星の王子さま」「娘道明寺」等のダンスを創作し、「土曜族展」として定期的に公演を開催しています。出演者(9名): 辰巳裕子、植田育美、岡部さゆり、木内巴瑛、小嶋里華、出口東詩子、長谷川直子、平田正代、廣田早苗



古草 敦史(香川大学)

仕事歌原画制作(3P~9Pの仕事歌原画)

愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻(油画) 修了、100人の交流展 in kobe すどう美術館賞、第44回関西国展奨励賞、第46回関西国展ホルベイン奨励賞、第46回関西国展関西国画賞、第85回国展新人賞、第86回国展新人賞、第91回国展損保ジャパン日本興亜美術財団賞など受賞。国展会員。現在第96回国展出展中。2015年4月~香川県造形教育研究協議会会長。香川大学教育学部教授。

